グリセリン　$C_3H_8O_3$〔濃グリセリン、日局〕
β-グルカン　大麦、えん麦、酵母等の細胞壁に存在する多糖類で、加水分解によりD-グルコースを生ずる。ただし、大麦由来の分子量約200,000のものを用いる。
m-クレゾール　$CH_3C_6H_4OH$〔１級〕
クロム酸カリウム　K_2CrO_4〔特級〕
クロム酸カリウム試液　クロム酸カリウム10g（9.5～10.4g）に水を加えて溶かし、100mLとする。
クロマトグラフ用ケイソウ土　セイソウ土、クロマトグラフ用の項に定める。
クロマトグラフ用DEAE-セファデックスA-25　DEAE-セファデックスA-25、クロマトグラフ用の項に定める。
クロモトロプ酸　$(HO)_2C_{10}H_4(SO_3Na)_2$〔クロモトロプ酸（二ナトリウム塩）、特級〕　遮光して保存する。
クロモトロプ酸試液　水30mLに硫酸68mLを注意して加え、放冷した後、水を加えて100mLとした溶液にクロモトロプ酸0.05g（0.045～0.054g）を加えて溶かす。遮光して保存する。
クロラミン　$C_7H_7ClNNaO_2S\cdot 3H_2O$〔クロラミンT、特級〕
クロラミン試液　クロラミン１g（0.5～1.4g）に水を加えて溶かし、100mLとする。用時調製する。
クロラムフェニコール　$C_{11}H_{12}Cl_2N_2O_5$〔日局〕
p-クロロフェノール　ClC_6H_4OH　無色～僅かに赤色の結晶又は結晶の塊で特異な臭いがある。エタノール、クロロホルム、エーテル又はグリセリンに極めて溶けやすく、水にやや溶けにくい。
融点　約43℃
含量　99.0%以上
定量法　本品約0.2gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、水を加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更に水を標線まで加えて100mLとする。この溶液25mLを全量ピペットを用いて量り、ヨウ素瓶に入れ、0.1mol/L臭素溶液20mLを全量ピペットを用いて加え、さらに、塩酸５mLを加え、30秒以内に密栓し、30分間しばしば振り混ぜ、さらに、15分間放置する。次に、ヨウ化カリウム溶液（１→５）５mLを加え、30秒以内に密栓し、よく振り混ぜた後、0.1mol/Lチオ硫酸ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　デンプン試液１mL）。同様の方法で空試験を行う。
0.1mol/L臭素溶液１mL＝3.214mgC_6H_5ClO
クロロホルム　$CHCl_3$〔特級〕
クロロホルム、エタノール不含　クロロホルム20mLを水20mLと３分間穏やかによく振り混ぜた後、クロロホルム層を分取し、さらに、水20mLずつで２回洗い、乾燥ろ紙でろ過し、無水硫酸ナトリウム５g（4.5～5.4g）を加え、５分間よく振り混ぜ、２時間放置した後、乾燥ろ紙でろ過する。用時調製する。
ケイソウ土、クロマトグラフ用　白色～灰白色の上質のものを用いる。
酵母エキス　適当な条件下で酵母（*Saccharomyces*）の産出物のペプトン様の総水溶性物質を澄明液とし、蒸発乾燥し、粉末としたもので、本品１gは、原料酵母7.5g以上から得たものである。帯赤黄色～褐色の粉末で腐敗臭のない特異な臭いがある。水に溶けて黄色～褐色の弱酸性の溶液となる。本品には、特別に含水炭素を加えない。
凝固性たん白質　本品の水溶液（１→20）を沸騰するまで加熱するとき、沈殿を生じない。
塩化物（NaClとして）　5.0%以下
乾燥減量　5.0%以下（0.5g，105℃，恒量）
強熱残分　15.0%以下（0.5g）
窒素含量　7.2～9.5%（105℃，恒量，乾燥した後、窒素定量法によるものとする。）
五酸化リン　P_2O_5〔特級〕
コバルト亜硝酸ナトリウム　$Na_3Co(NO_2)_6$〔特級〕
コバルト亜硝酸ナトリウム試液　コバルト亜硝酸ナトリウム10g（9.5～10.4g）に水を加えて溶かし、50mLとする。必要ならば、ろ過する。用時調製する。
酢酸　CH_3COOH〔日局〕（５mol/L）
酢酸亜鉛　$Zn(CH_3COO)_2\cdot 2H_2O$〔特級〕
酢酸イソアミル　$CH_3COOCH_2CH_2CH(CH_3)_2$〔特級〕
酢酸、希　氷酢酸６g（5.5～6.4g）に水を加えて100mLとする（１mol/L）。
酢酸、氷　CH_3COOH〔酢酸（氷酢酸）(99～100%)、特級〕
酢酸、氷、非水滴定用　氷酢酸１Lに三酸化クロム５g（4.5～5.4g）を加え、一夜放置した後、ろ過して蒸留し、115℃以上の留分に無水酢酸20g（19.5～20.4g）を加え、再蒸留し、117～118℃で定沸点になった留分をとる。
酢酸アンモニウム　CH_3COONH_4〔特級〕
酢酸アンモニウム試液　酢酸アンモニウム10g（9.5～10.4g）に水を加えて溶かし、100mLとする。
酢酸・エタノール試液　氷酢酸１mLに水９mLを加え、さらに、エタノール10mLを加え、混和する。
酢酸エチル　$CH_3COOC_2H_5$〔特級〕
酢酸塩酸緩衝液、0.1mol/L、酵素力試験用　0.1mol/L酢酸ナトリウム試液に0.1mol/L塩酸試液を加えて所定のpHに調整する。
酢酸塩酸緩衝液、0.25mol/L、酵素力試験用　酢酸ナトリウム34.02g（34.015～34.024g）に水を加えて溶かし、塩酸でpHを5.5に調整し、水を加えて1,000mLとする。
酢酸・酢酸アンモニウム緩衝液、pH4.8　酢酸アンモニウム77g（76.5～77.4g）に水約200mLを加えて溶かし、これに氷酢酸57mLを加え、水を加えて1,000mLとする。
酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液、pH5.0　酢酸ナトリウム試液140mLに希酢酸60mL及び水を加えて1,000mLとする。
酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液、１mol/L、酵素力試験用　酢酸ナトリウム試液に希酢酸を加えて所定のpHに調整する。
酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液、0.2mol/L、酵素力試験用　0.2mol/L酢酸ナトリウム試液に0.2mol/L酢酸試液を加えて所定のpHに調整する。
酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液、0.1mol/L、酵素力試験用　0.2mol/L酢酸ナトリウム試液に0.2mol/L酢酸試液を加えて所定のpHに調整し、水を加えて正確に２倍容量とする。
酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液、0.01mol/L、酵素力試験用　0.2mol/L酢酸ナトリウム試液に0.2mol/L酢酸試液を加えて所定のpHに調整し、水を加えて正確に20倍容量とする。
酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液、0.005mol/L、酵素力試験用　0.2mol/L酢酸ナトリウム試液に0.2mol/L酢酸試液を加えて所定のpHに調整し、水を加えて正確に40倍容量とする。
酢酸・酢酸リチウム緩衝液　酢酸リチウム407g（406.5～407.4g）及び酢酸200mLに水を加えて溶かし、2,000mLとする。
酢酸試液、６mol/L　氷酢酸36g（35.5～36.4g）に水を加えて溶かし、100mLとする。
酢酸試液、0.2mol/L　氷酢酸12g（11.5～12.4g）に水を加えて溶かし、1,000mLとする。
酢酸スチグマステロール　一般試験法のビタミンD定量法に定めるところによるものとする。
酢酸第二水銀　$Hg(CH_3COO)_2$〔特級〕
酢酸第二水銀試液、非水滴定用　酢酸第二水銀５g（4.5～5.4g）に非水滴定用氷酢酸を加えて溶かし、100mLとする。
酢酸*dl*-*α*-トコフェロール、定量用　酢酸*dl*-*α*-トコフェロール製造用原体。ただし、定量するとき、酢酸*dl*-*α*-トコフェロール98.0%以上のものに限る。
酢酸ナトリウム　$CH_3COONa\cdot 3H_2O$〔特級〕